

「がん検診」を受けていますか？

厚 生労働省の集計では、“がん”は死因のトップとなっており、3人に1人は“がん”で亡くなられています。

“がん”は医学の進歩により、早期に発見すれば治る確率は高くなっており、国でも「がん検診」受診を推進していますが、その受診率は20%前後と低調です。

今号では佐賀県のがんの現状、がん検診の内容等の特集いたします。



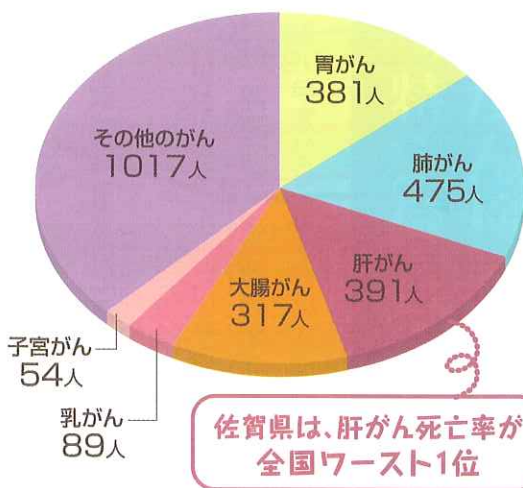
佐賀県のがんの現状

佐賀県では、全国と同様に、3人に1人が“がん”により亡くなっています。また、人口10万人当たり死亡率は、常に全国平均より高く、平成19年・20年は全国10位でした。

■人口10万人当たりの“がん”死亡数と死亡率

年 度		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
県死亡者	総 数	8,214(人)	8,546(人)	8,447(人)	8,787(人)	8,983(人)
	がん死亡者	2,630(人)	2,709(人)	2,628(人)	2,690(人)	2,724(人)
	割 合	32.0(%)	31.6(%)	31.1(%)	30.6(%)	30.3(%)
死亡率 ※人口10万対	佐 賀 県	303.7(人)	313.9(人)	306.1(人)	314.3(人)	319.7(人)
	全 国	253.9(人)	258.3(人)	261.0(人)	266.9(人)	272.3(人)
	順 位	6	7	8	10	10

■佐賀県の“がん”の主要部位別死亡者数(平成20年度)



がん予防

「がん」による死亡を防ぐためには、がんを罹らないようにすることが重要です。がんは遺伝するといわれていますが、実は、遺伝によるものは少なく、むしろ、喫煙、食生活及び運動等の生活習慣が原因である方が多く、これらに気をつけて発がんリスクを下げる必要があります。しかし、発がんリスクを下げるため生活習慣の改善に心がけたとしても、がんを罹るリスクをゼロにすることはできません。

そこで重要となるのが、がん検診です。

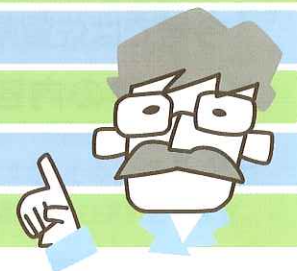
医学の進歩等により、がんは、現在、約50%の方が「治る」ようになりました。特に進行していない初期の段階で見出し、適切な治療を行うことで、非常に高い確率で治癒します。従って、そうしたがんを「初期」の段階で見つける「がん検診」は、がんの死亡率を下げるのに非常に有効だと考えられます。

へ厚生労働省HPよりへ

国立がんセンター監修

がんを防ぐための12カ条

- 1 バランスのとれた栄養をとる ● いろどりの豊かな食卓にして
- 2 毎日、変化のある食生活を ● ワンパターンではありませんか？
- 3 食べすぎをさけ、脂肪はひかえめに ● おいしい物も適量に
- 4 お酒はほどほどに ● 健康的に楽しみましょう
- 5 たばこは吸わないように ● 特に、吸いはじめないことが肝心
- 6 食べものから適量のビタミンと繊維質のものを多くとる ● 緑黄色野菜をたっぷりと
- 7 塩辛いものは少なめに、あまり熱いものはさましてから ● 胃や食道をいたわって
- 8 焦げた部分はさける ● 突然変異を引きおこします
- 9 かびの生えたものに注意 ● 食べる前にチェックして
- 10 日光に当たりすぎない ● 太陽はいたすら者です
- 11 適度にスポーツをする ● いい汗、流しましょう
- 12 体を清潔に



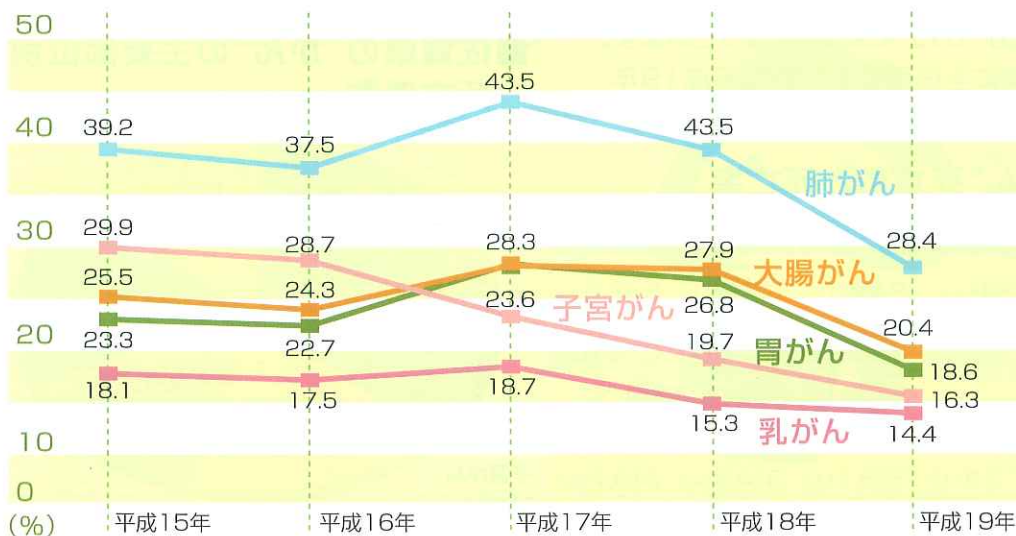
肝炎検査とインターフェロン治療費助成

肝がん予防にはまず、肝炎検査を受けることが大切です！

詳細はお住まいの市町や保健福祉事務所へお問い合わせください。

また、既にB型肝炎・C型肝炎と診断された方はインターフェロン治療費助成があります。お近くの保健福祉事務所へお問い合わせください。

■佐賀県のがんの検診(市町検診)受診率の推移(老人保健事業分)



※平成18年度から肺がん検診と同時実施されてきた結核検診の義務化がなくなった。
※乳がん検診と子宮がん検診については、平成16年から原則2年に1回の実施となっている。

「がん検診」受診率

がんの早期発見には「がん検診」が効果的ですが、その受診率は高くありません。

佐賀県では、平成20年3月に「佐賀県がん対策推進計画」を策定し、各種がん検診の受診率を国の計画に準じ、50%以上を目指すことを目指しています。

「がん検診」の種類

がん検診については、健康増進法に基づく健康増進事業として市町村が実施しています。

特に「胃がん」「肺がん」「大腸がん」「乳がん」「子宮がん」の5種類のがん検診については、がん検診の専門家やがん医療の専門家などから構成される「がん検診に関する検討会」において、きちんとした科学的データをもとに、「がん検診の効果」「対象者の範囲」「検査方法」等の検討が行われ、その結果を踏まえて実施されています。

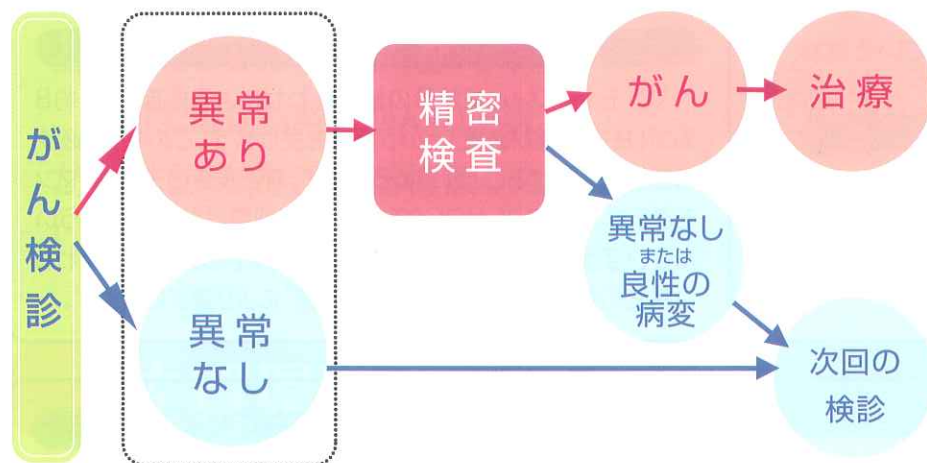
実施時期や場所は、お住まいの市町により異なりますので、各市町の窓口へお尋ねください。



■厚生労働省の指針に定められる“がん検診”の種類、検査項目、対象者等

種 類	検 査 項 目	対 象 者	受 診 間 隔
胃がん検診	問診及び胃部エックス線検査	40歳以上	年1回
肺がん検診	問診、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診、視診、触診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ)	40歳以上	2年に1回
子宮がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回

■がん検診の流れ



がん検診は、一見健康な人に対して、「がんがありそう(異常あり)」、「がんがなさそう(異常なし)」ということを判定し、「ありそう」とされる人を精密検査で診断し、救命できる「がん」を発見することを目的としています。

「がん検診」の流れ

「がん検診」とは 特定健診とは

平成20年度から「特定健診」が実施されていますが、制度変更による混乱のため、「がん検診」の受診率が低下していると言われています。

「特定健診」の前身である「基本健診」の実施主体は、「がん検診」と同じ市町村でしたが、「特定健診」の実施主体が医療保険者に移ったため、健康保険組合の被扶養者(サラリーマンの被扶養者)の方々は、扶養者が加入する健康保険組合の健診を受けることになっています。これに伴って、市町村が行う「がん検診」も受けられなくなると誤解されているケースも多いようです。

「がん検診」は、健康増進法に基づき「市町村」が実施することとなっており、特定健診とは実施主体が異なりますのでご注意ください。

特に、事業者健診(職場での定期健診)を受ける機会のない主婦や高齢者のうち、健康保険組合の被扶養者(サラリーマンの被扶養者)の方々については、特定健診は健康保険組合、「がん検診」は市町、と実施主体が異なりますので、ご注意ください(自営業などの国民健康保険加入者については、特定健診、がん検診共に、実施主体は市町村になります)。

胃がん検診

検診の方法

胃の検査方法として一般的なものは、「胃X線検査」、「胃内視鏡検査」、「ペプシノゲン検査」、「ヘリコバクターピロリ抗体検査」です。この中で胃がん検診の方法として、「効果がある」と判定されている検査は、「胃X線検査」です。

精密検査

胃X線検査では、約10%の人が「精密検査が必要」という判定を受けます。この場合、必ず精密検査を受けることが求められます。精密検査の方法は「胃内視鏡検査」と「胃X線検査」の2種類がありますが、その方法は「疑わしい病変の部位」、「悪性の可能性の程度」により選択されます。

肺がん検診

検診の方法

肺がんの予防には禁煙が何といても重要で、検診の効果は限られています。肺がんの検診方法として「効果がある」と判定されているのは「胸部X線検査」と、さらに喫煙者には「喀痰細胞診（かくたんさいぼうしん）」を組み合わせた方法があります。喫煙者として検査対象となるのは、喫煙指数が400以上あるいは600以上の方です。（※喫煙指数：1日の喫煙本数×喫煙年数）

精密検査

胸部X線検査の約3%、喀痰細胞診の約1%が「精密検査が必要」という判定を受けます。この場合、必ず精密検査を受けることが求められます。精密検査の方法は、「CT」、「気管支鏡」等がありますが、その方法は「疑わしい病変の部位」、「悪性の可能性の有無」により選択されます。

大腸がん検診

検診の方法

大腸がん検診の方法として、「効果がある」と判定されている検査は「便潜血検査」、「全大腸内視鏡検査」です。がん検診の中でも効果が最もよくわかっている検診です。

精密検査

便潜血検査では、約7%が「精密検査が必要」という判定を受けます。この場合、必ず精密検査を受けることが求められます。精密検査の方法は何種類かありますが、全大腸内視鏡検査が基本です。

乳がん検診

検診の方法

乳がん検診の方法として、「効果がある」のは、「マンモグラフィ」と「視触診」の組み合わせです。

精密検査

マンモグラフィと視触診の組み合わせによる検査では、約8%が「精密検査が必要」という判定を受けます。この場合、必ず精密検査を受けることが求められます。精密検査の方法は、マンモグラフィ、超音波、MRI、CT、穿刺吸引細胞診（せんしきゅういんさいぼうしん）や針生検等がありますが、その方法は、「疑わしい病変の部位」、「悪性の可能性の有無」により選択されます。

子宮がん検診

子宮頸がんと子宮体がん

子宮がんには子宮頸部と体部の2種類のがんがあり、両者はその部位もがんの種類も異なります。子宮頸がんは、子宮の入り口の頸部から発生します。

体がんは、子宮の奥にある内膜から発生します。内膜は生理のときにははがれてしまうので、閉経前に体がんが発生することはまれです。

検診に
行きましょう★



子宮頸がん検診の方法

子宮頸がん検診の方法として「効果がある」のは、「細胞診」です。進行がんになるのを防ぐことができ、がん検診の中でも効果の高い検診と考えられます。

精密検査

細胞診では、約1%が「精密検査が必要」という判定を受けます。この場合、必ず精密検査を受けることが求められます。精密検査の方法は、細胞診やコルポスコープ等がありますが、その方法は「疑わしい病変の部位」、「悪性の可能性の程度」により選択されます。